

# ハンセン病回復者の地域復帰について

地域復帰者

かわしま たもつ  
川島 保

解放出版社

はらだ けいこ  
原田 恵子

大阪、都島区に社会復帰された川島さんと、ハンセン病問題にとりくんでいる原田さんと対談いただきました。(2回にわけて掲載します。)



原田 恵子



川島 保

## ◇ 「大阪・都島での暮らし」

(原田) 2002年4月に大阪に来られ、今年の5月で2年になるけれど、もう慣れた？

(川島) こんなに慣れていいものかなと思うほど慣れた。友達もできて、ここに遊びに来てくれる友達もできた。まあ、だいしょうぶ。昼からの訪問者がなければ、ほぼ毎日、歩いて5分のところの老人福祉センターで碁を打っている。誰それとなく打っている。まあ、そんなに困っていない。



長島愛生園住舎  
(納骨堂の高台から)

(原田) いままで病気をしたことは？

(川島) 夏かぜをひいたことがある。岡山にかえったりして、暑いところからクーラーのよく効いた部屋に入ったりして体調を崩した。その時は、近くの薬局で市販の薬を飲んで治した。

(原田) 今まで特に困ったことは？

(川島) 2年近くなるが、いろいろな手続きなどの相談。それと電化製品などの故障の修理などかな。

(原田) 相談は誰にするの？

(川島) 区役所の人権課に電話して聞いている。あと、細かいことなどは医療センターの看護師に聞くこともある。最近、耳が遠くなって、補聴器を付けるようになった。ただ、先日、補聴器を無くしてしまったが。

あと、厚労省との協議などで問題があったら弁護士が私のところに来る。今日、実は私の71歳の誕生日祝いをかねて弁護士さんたちが来るんだ。

(原田) 寂しいことはない？

(川島) 今のところは楽しくてとても快適に生活している。まあそんなに困っていない。ただ、11月ごろ右足の裏に傷ができた。治ったと思っていたけれど、何かと忙しくて、病院にいけなかった。

(原田) 傷はだいしょうぶなの？。『裏きず』はちゃんとみてもらわなければだめよ。

(川島) あんな傷はみてもらうほどでもないから。それにこうゆう傷がわかる医者はなかなかいない。傷はハンセン特有の後遺症やから。

(原田) 込み入った話を聞くけれど、経済的にはだいしょうぶ？

(川島) 国からの支援費と年金で生活している。そんなに切りつめてやっている訳でもないかな。家賃、共益費、光熱費とかは引き落としにしている。まあ、私の性格では、あったらあっただけ使ってしまう。



橋が架かるまで使われていた邑久光明園の栈橋。右が「入所者」専用で、左が、「職員」用に分けられていた。



川島保さんが作詞した「邑久高等学校新良田教室」の校歌



(原田) 大阪府に家賃補助申請していたが……。

(川島) あれは無理だった。府の立場では“他にも待っている人もいるのに、ハンセン病とってあなたたちだけに補助することはできない”と。

(原田) ここに来て、こんな問題があるからこういうこととしてほしいといった希望とかある？。あとから来る人の先駆者としてどういった点を改善したらいいの。

(川島) 要求はないけれど。私の場合は、1970（昭和45年）にも大阪で暮らしていた、けどその時は病気を隠していた。だから心も狭かったが、今はありのままの生活をしようとしているので気持ちが楽である。うそをついて生きていくのは、とても楽じゃない。その点じゃ非常によかったんじゃない。

ただ、あとに続く人はおらんなあ。本当は、みんな帰りたいや。ただ旅行で来るのと、か、帰省でくるとかと、実際住むのとは違う。

(原田) ここに来て一番うれしかったことは？

(川島) 自由や。いつ、ご飯を食べてもいいし、寝ころんでもいいし。お酒とパチンコと碁にいくんや。糖尿病だから体によくないのであまりお酒は飲まないが、水を飲んでるぐらい薄めて飲んで、カラオケにいったうたを歌う。

愛生園でも忙しくしてたけど、ここにいる方が生活している、生きてるとゆう実感がある。

(原田) ご飯はどうしているの？

(川島) 月賃金はヘルパーさんがきて昼と夕をつくってくれる。ごはんはバックにして冷凍してくれる。おかずもつくってくれる。火木土のお昼はふれあい弁当をたのんでいる。そして、火木土の夕と日の昼・夕は外食してる。

(原田) 自分みたいに社会復帰してくれたらいいと思う？

(川島) 1回してみなければわからないと思う。わたしは愛生園でも普通よりも少し下の不自由さである。かなり体も動ける人もいる。わたしは、1970（昭和45年）ごろ1回出た経験があったからそういった気持ちになったかなと思う。勇気だして社会復帰して盛り上げる人がおらなければならぬ。自分で、1日が短いなと言うぐらいの楽しみをもってほしい。ただかならず100%社会復帰できるとはかぎらない。

(つづきは次号に掲載)